



海蔵寺だより

第29号

令和6年

3月 発行

～相承～ 大いなる足音が聞こえますか

今年、太祖・瑩山紹瑾(けいざんじょうきん)禅師の **700回大遠忌** という、曹洞宗にとっての大きな節目の年です。瑩山禅師は道元禅師とともに「**両祖(りょうそ)**」として、二人同列の曹洞宗の開祖に近い立場の方です。(曹洞宗では通常、「開祖」という言葉は用いません。)



瑩山禅師の説法をまとめた書物の「伝光録(でんこうろく)」は、道元禅師が著された「正法眼蔵(しょうぼうげんぞう)」とともに **曹洞宗の代表的な二大宗典** とされています。この伝光録には、インドから中国そして道元禅師に至るまでのおよそ1800年間、師匠から弟子へと代々正しい仏法を受け継いだ、**53人の禅師さまについての内容が説かれています**。そしてさらに道元禅師から今日の我々までおよそ800年間、仏法はその形を変えないよう細心の注意を払われながら、さらに40ほどの代に伝わりました。インドから日本、そして現在の私たちまで、2500年のスケールを持つ、まさに途方もない旅路です。

つまり、今の住職さんはお釈迦さまから数えて90～100代目の正しい**仏法の継承者** ということができます。同時に、現代においてわれわれ僧侶や、檀家さんの皆さまがする「供養」や「布施」、「読経(どっきょう・お経を声に出して読むこと)」ということは、古代インドのお釈迦さまから代々受け継がれてきた、直伝の仏教の儀式なのです。

「相承(そうじょう)」とは、受け継ぐこと。今回のタイトル「**～相承～ 大いなる足音が聞こえますか**」は、大遠忌のタイトルです。

朝、仏壇の前で、鐘を鳴らして手を合わせる。ご飯とお線香を供えてご先祖様を供養する。この行為にさえ、**お釈迦さまの時代の仏教のエッセンスが残されています**。こういった作法はわれわれ僧侶だけではなく、皆さんの生活の中にもしっかりと引き継がれているのです。



今年、曹洞宗にとって大きな節目の年。曹洞宗のお檀家さんである皆さんが少しだけでも、両祖の一人である瑩山禅師さまや、手から手へ受け継がれてきたお釈迦さまの教えに思いをよせて頂けると、一曹洞宗寺院としてこれ以上のことはありません。

今回参考にさせて頂いたサイト

『佐藤隆定 - 禅の視点 - life - (zen-essay.com)』

『経典 | 曹洞宗 曹洞禅ネット SOTOZEN-NET 公式ページ』

『【両祖】曹洞宗の祖は2人いる ～道元禅師と瑩山禅師～ - 禅の視点 - life -』

月例坐禅会を開催中です。



毎月の第二日曜日、14時開始を基本とし、月例坐禅会を開催中です。坐禅の時間は15分と20分の2回です。椅子に座る「いす坐禅」も曹洞宗において公式に認められている坐禅の仕方ですので、腰・ひざなどが悪い方でも不安なく参加して頂けます。

また、2人のお子様も初期から参加して下さり、今ではすっかり常連さんとなりました。現在、80代の方を含む8名ほどの方が参加して下さっています。事前予約は必要ありませんので、ぜひとも気軽にご参加ください。

第7回を迎え、そろそろ坐禅のみの会に新要素を加える機運が高まってきており、写経やヨガなどの可能性を模索中です。

この度、正式に副住職となりました。

本山に申請を出していた副住職辞令など一揃いの書類が2月中旬に届き、晴れて副住職を名乗ることができるようになりました。

修行から帰って既に3年4か月が経っており、コロナによる瑞世団体参拝(28号参照)の延期など間延びの直接の原因となりますが、この度無事に副住職及び跡継ぎ候補者等の申請が完了したことで、修行関係の一連の行事もひと段落という事になります。

日頃よりお世話になっておりますお檀家さん方、及び度重なるご厚情を賜りました総代役員さまに、深く感謝を申し上げます。これからも海蔵寺を宜しくお願い致します。



海蔵寺の、新しい情報発信の場。
SNSのご登録をお願い致します!



ウェブサイト



KAIZOUJI, HIROSAKI



フェイスブック

現在は海蔵寺の行事・日常風景を主に伝えております。将来はイベント情報など多彩に活用して参ります。DM・コメントにはお答え致しますのでお気軽にお願いします!!

境内維持に変革を 新除草剤導入により経費削減を検討

墓地管理費の収支が赤字となっている現状が2月18日の全体会議において取り上げられ、墓地における草取りの回数を減らして液体タイプの除草剤を導入することで、経費の削減を図ることが決議されました。

今年は試験的に導入されることから、年度末の墓地管理費の収支決算に注目したい所です。

弓道部による団体坐禅会(3/2)



青森市内の高校弓道部の皆さんが坐禅をしに来てくれました! 高校生12名、大人5名の計17名でした。

皆さん姿勢が良く、警策(きょうさく・坐禅の時に使う棒)で姿勢を直される人がほぼ居ませんでした。説明の時に綺麗に並んだ叉手(手の形)が印象的でした。

弓道文化寶お聞きしたのですが、弓道は「立禅」とも言われるそうです。心静かに弓を引く精神には、坐禅と通じる所があるのかも知れませんね。

編集後記

坐禅会が昨年お盆の初回より順調に成長して来ましたが、最近では人数が伸び悩んでおります。修行中より思いを馳せていたお寺での行事やイベントですが、矢張りいざ企画を始めると難しい問題が次々と現れ、やりがいを感じております。

冬はドライブや登山など趣味ができないので、最近では図書館に通って読書していることが多いです。甘い味のリキュールにハマっています。太らないように気を付けたいといけませんね。温かい冬ですが、体調管理には気を付けたいところです。 文責：花田滉基副住職